

ゴール16 「平和と公正をすべての人に」

SDGsゴール16は「平和と公正をすべての人に」を目標としています。

世界では、紛争などで住む場所を追われた人が過去最高となる約1億人にのぼります。また、約4億人の子どもたちが紛争地域で暮らしています。日本では、紛争などはありませんが、国際協調を基本に国際社会の平和と安定に取り組むこととし、難民の受け入れなどを行っています。

また、世界では、5歳未満の子ども4人に1人は出生登録がなく、法的に存在していません。出生登録がないと、例えば、予防接種が受けられない、学校に入学できない、犯罪に巻き込まれても裁判ができない、人身売買被害にあつて国外に連れ出された子どもが生まれた国に戻れなくなるなど、様々な問題が起こります。

平和で公正な社会を作っていくことが求められています。



○行政の役割としては

平和で公正な社会を作る上でも自治体は大きな責務を負っています。地域内の多くの住民の参画を促して参加型の行政を推進して、暴力や犯罪を減らすのも自治体の役割です。

○私たちができること(例)

- ・紛争問題などについて調べてみる。
- ・公正な社会をつくるために、選挙に行くなど、政治に参加する。

2030年までの国際的な目標の実現に向け意識をして実践しましょう。

私たちができること(例)



公正な社会をつくるために、政治にかかわる選挙に行く。



インターネットなどで調べてみる。

目標達成のためのターゲット

- 各国でも、国際的にも、法律にしたがってものごとが取りあつかわれるようにし、すべての人が、平等に、争いを解決するための裁判所などの司法を利用できるようにする。
- 2030年までに、法律に反する資金や武器の取引を大きく減らし、奪われた財産が返されたり、元に戻されたりするようにする。あらゆる形の組織的な犯罪をなくす。
- 2030年までに、出生登録を含め、すべての人が法的な身分証明を持てるようにする。

SDGs 16 「平和と公正をすべての人に」では、上の3つのターゲットを含む、全12のターゲットを掲げ、目標達成に向けて取り組みを進めていきます。

※公益財団法人 日本ユニセフ協会HP引用

【問】 みらい創生課 企画・SDGs推進班 ☎ (72) 1151